

バラの 魅力を 伝えたい!

後継者農業女子

PROFILE

ねがし かよ
根岸 佳世 さん

バラ農家 就農歴13年(みどり市)

大学卒業後、実家のバラ園にて農業をスタート。1年後の結婚を機に、夫・彰啓(あきひろ)さんもバラ栽培に参加。ご両親と共にバラの栽培・販売を行う傍ら、フラワーアレンジメントの講師としても活躍。

家族で協力しながら農業と育児を両立 大事な今は今できることを精一杯!

夫との出逢いが就農のキッカケ

バラの栽培と生花の販売を行う「根岸ばら園」の長女として生まれた佳世さん。バラ農家として忙しく働く両親の背中を見て育ち、自身も10代の頃から父・始(はじめ)さんとバラの栽培管理や、自宅の生花店の手伝いをしながら、漠然と「就農せざるを得ないのかな」と思っていた。ただ、父から「家業を継いでほしい」と言われたことは一度もなく、就農する思いは明確ではありませんでした。そんな佳世さんの背中を押したのが夫・彰啓(あきひろ)さん。東京生まれ・大育ちの彰啓さんと出会ったのは近畿大学生物理工学部に在学中。元来、植物を栽培するのが好きだった彰啓さんにとって、佳世さんの実家はとても魅力的な環境。彰啓さんが家業のバラ栽培に興味を持ったことがキッカケでした。それから佳世さんは来るべ

き就農に向けて、フラワーアレンジの勉強を大学4年生から開始。約3年の歳月をかけてNFD(日本フラワーデザイナー協会)認定の講師資格を取得。この資格が現在の経営に大きく活かされています。

佳世さんが本格的に農業をスタートさせたのが大学卒業後。非農家出身の彰啓さんは結婚まもなく、静岡県の子バラ農家で1年間の研修をし、栽培技術と花き経営等を習得してから就農しました。当初は父に教わりながら、佳世さんが栽培や出荷のフォローを、彰啓さんが栽培を担当。「父は、私より夫に栽培のイロハを教えていました。父と夫で全般を行い、私には生花店の運営を任せただけだ」と佳世さん。親子二世帯、分業制での花き経営を開始しました。ほどなくして佳世さんが妊娠。子育てが生活の中心になり、一歩引いた立場で花き経営に携わる状態が数年間ありました。